

CES(千代田エコシステム)事務局通信 5月号

平成26年5月1日発行
CES推進協議会 事務局

CES活動ニュース

1. 平成26年度「通常総会」を開催します

平成26年度「通常総会」を、来たる5月14日(水)に、千代田区役所会議室にて開催いたします。議案は、平成25年度の「事業報告」ならびに「事業収支決算」、また平成26年度の「事業計画」および「事業収支予算」などです。

平成25年度については、会員並びに賛助会員はじめ関係各位のご支援ご協力により、予定しました事業を滞りなく進めることができました。また、収支決算においても、当初予定した範囲での執行により、収支差額を次年度に繰り越すことができました。

平成26年度については、クラスⅠでは、環境配慮活動及び啓発活動の活性化、各種イベント活動の質的向上などを目指すことといたしました。

クラスⅡについては、昨年度の検討委員会を踏まえ、新しくなった「CESクラスⅡガイド」により、区内、個人事業主(商店など)の環境配慮行動を活性化させるため、学生アルバイトなどを活用し取り組みを推進することといたしました。

クラスⅢについては、既存のクラスⅢ活動事業所に対する監査を行うほか、新規の参加事業所の拡大に努めることといたしました。

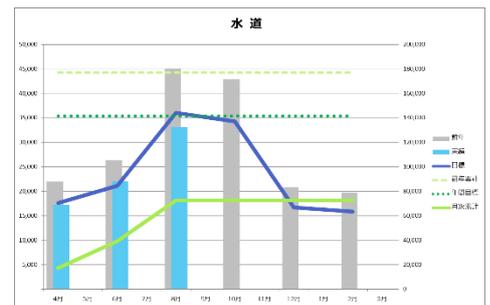
5/
14

2. 「CESクラスⅡ」が新しくシンプルになりました!

前述のとおり「CESクラスⅡ」は、個人事業主の方がより取り組みやすいよう新しくシンプルになり、今年度から運用をスタートしました。

主な改訂のポイントは、電気・ガス・水道の費用をデータとして利用する(電気は、料金 またはCO₂排出量も可)、活動チェックシートをグラフ化できるフォーマットを配布し、データの入力支援を行う、などです。例えば、電気・ガス・水道の費用を入力すれば、月々の経費が自動的にグラフ化されます。CO₂削減の環境貢献を

通じて、経営コストの削減にもぜひお役立てください。増税分を、エネルギー使用量削減で取り戻す取り組みなどにもおススメです。



数値の変化がグラフで見られます

3. 「さくら咲くプロジェクト～春編」「ウオーキング・プラス・桜の物語り」を開催

もともとは、別々の事業ですが、今回初めて合同開催に挑戦しました。まず、環境リーダーの西塔氏による講義「自然環境から見た稲作の取り組み」で、田んぼの構造や、日本人の主食である「米」の歴史について勉強。稲作は、紀元前から始まって2100年以上の歴史があることなどを学びました。その後、グループに分かれて、「あきたこまち」



桜の葉おむすびを作って交流

や大島桜の葉を使った、おむすびやサンドイッチなどをワイワイ調理し、北の丸公園へ。桜を見ながらいただく、桜の葉で作った料理は格別でした。

その後、講師の美濃又哲男氏と須田英二氏（NPO法人東京樹木医プロジェクト）をお迎えし、桜の説明を聞きながら、ウォーキング。清水門から千鳥ヶ淵、乾門、代官通り、英国大使館前と、色々な場所で、様々な品種の美しい桜を満喫しました。

ちょうど桜の開花宣言があった初めての週末で人ごみもありましたが、快晴の中、春の恵みを一杯いただき、その大切さを実感することができたのではと思います。

一方で、合同開催については、「色々な世代の人が参加していて楽しかった」「合同企画の意味が（あるのでしょうか）？」と賛否両論の声が聞かれ、その難しさを痛感しました。



桜と親しむウォーキング

4. 事務局スタッフ紹介

新年度から、事務局スタッフが一名増えました。「野澤 淳史（のざわ あつし）」さんです。主に、クラスⅡの担当となります。

各々の作業の平準化を図り、業務処理のスピード化に繋がりたいと考えています。皆様の変らぬご指導をお願い致します。



かんきょう

2020年には東京オリンピックが開催されます。

さて、オリンピックで大活躍した「ベジタブル」とは、何でしょう？

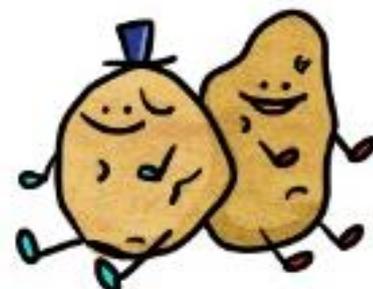
1994年のリレハンメル冬季五輪で、環境に配慮して使われた「食べられる食器」。その原料となった野菜は、何だと思いませんか・・・？

リレハンメル冬季五輪で使用されたのは、「ポテトレー」というユニークな名前のプラスチック製食器だったそうです。原料は、ジャガイモのデンプンを利用したものでした。

また、2000年のシドニーでも、環境への配慮から「緑のオリンピック」とも呼ばれ、植物のデンプンで作った食器や、生ゴミ収集袋が採用されました。

これらの土に還る生分解性プラスチックは、環境にやさしい反面、やや耐久性に欠けることがウイークポイントでもあるようですが、近年は研究が進み、より実用的で耐久性に優れた植物由来プラスチックが開発されているようです。例えば、クレジットカードやペットボトルのラベル、携帯ラジオなど、ジャガイモの活躍の場は大きく広がっているようです。

オリンピックや万博など国際的なイベントが開催されるたびに、その都市の自然破壊やゴミ問題が浮上ります。果たして2020年の東京オリンピックにはどんな問題が浮かび上がるのでしょうか・・・？



少しでも環境への負荷を減らすため、主催者側でも毎回様々な工夫をされるようですが、果たして東京オリンピックでは、どんな工夫がなされるのでしょうか・・・？

日本人の持つ開発力と技術力に期待したいものです。

s k

